

ロシュの SARS-CoV-2 関連検査への取り組みと 今後の装置活用

◎天沼 卓也¹⁾

ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社¹⁾

弊社では COVID-19 によるパンデミックにおいて早期から臨床検査のニーズに応えるために各種製品を上市してきました。2020年2月には研究用試薬として SARS-CoV-2 の検出試薬を最初期に供給開始したのをはじめとして、体外診断用医薬品としても SARS-CoV-2 検査関連製品を提供してきました。

現在、日本国内での流行から2年半以上が経過し、ワクチン接種による効果もあり COVID-19 の感染状況としては落ち着いている状況です。このような状況下で課題となっているのが、導入した核酸増幅検出装置や抽出装置の活用についてです。同じく SARS-CoV-2 の検査で使用される抗原定性検査についてはイムノクロマト法が使用され専用機器を不要とするものがほとんどに対し、核酸検出（増幅）法に関してはサーマルサイクラーなどの専用の機器を必要とします。コロナ検査を主目的とした装置ではありますが、貴重な検査室のスペースを占有する機器である以上、何か別の検査をしたいというニーズが顕在化しつつあります。つまり、コロナの感染状況が落ち着きを見せる状況下では導入した設備の有効活用が望まれ始めています。

このようなニーズに対応する製品や方法について、SARS-CoV-2 検査以外の体外診断用医薬品のある機器、汎用リアルタイム PCR 装置の活用方法などをいくつかのパターンにわけてご紹介致します。

本講演では弊社の SARS-CoV-2 検査に対するこれまでの取り組みと現状についての共有と SARS-CoV-2 関連検査の将来展望についてご紹介致します。また、急速に導入された核酸増幅検出装置の活用方法として新興感染症対策など、いくつかのご事例を交えて有効活用する方法をご提案致します。